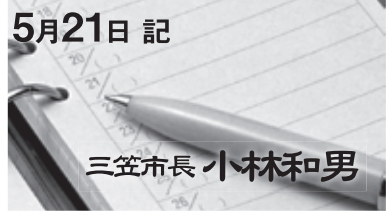


# 市長室



## 自然現象と人間社会

遅かった春も過ぎ、いよいよ初夏の季節に入ろうとしています。市民の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

先日、この冬の大雪による被害を職員と一緒に見て回りましたが、空き家の倒壊をはじめ、公共施設や街路樹、公園の遊具など相当の被害が出ており、現在、被害状況を細かく調査し、その復旧費用をこの6月の定例会に補正予算として提案することにしています。

今年の冬は、三笠市開庁以来の雪害の年として記録に残るほどの災害だろうと考えています。市民の皆さんも大変ご苦労されたことと思

います。

昨年の3月11日に起きた東日本大震災と福島第1原発の事故特に原発問題の終息には何十年とかかるだろうといわれております。こうした自然がもたらす災害とそれが原因で起きる人為的事故、あらためて自然界の営みを超越することのできない人間社会の弱さを私たちは冷静に認識すべきだと思います。

この震災に直接かかわってきた「日本地震学会」は、この震災以降1年間かけて「総括」をし、その論文を『地震学の今を問う』という題名で今月の11日に発表しています。

その170ページにも及ぶ数多くの論文に共通していたことは、今回の地震を想定できなかったその最大の原因は「既存の理論に過度に依存した思い込みがあった」ことであり、「健全な批判精神をもって研究に取り組むべきだ」と自己批判もしています。

確かに自然界の営みは、こうした地震や火山の爆発、台風など人類に「過酷な災害」を与えてきました。しかし、時には私たちに神秘的な現象を与えてくれます。

その1つが、今朝の天体ショーである「日食」でした。市民の皆さんは

どう観察されたのでしょうか。

私は、国立天文台のホームページで三笠市の「部分日食」の時刻を調べ、久しぶりの日食観察を楽しみませんでしたが、食の最大まで見ることができ、太陽が食されてゆく様子は、誠に神秘的であらためてこの宇宙の素晴らしさを感じた時間でした。

次回は、18年後の2030年(平成42年)6月1日とのことですが、今回とは違い、道内のほとんどで「金環日食」を見ることができるようなので、多くの道民がその素晴らしさを共有できることでしょう。

自然界は申し上げるまでもなく、我々に「夢」を与えてくれますが「地獄」をも与えます。そして、我々人類は自然界の営みを軽視したり無視したりすることがあります。

17世紀のフランスの学者であるブレイズ・パスカルはその随想録で「人間は考える葦である」と述べています。

自然界は時に、人類に過酷な試練を与えてきますが、それを回避し人類に役立つ方向に変えるのが「考える葦」なのです。そんな人間になりたいと考える今日このごろです…。

## 第20回北海盆唄全国大会

【日時】7月8日(日)午前9時30分  
【場所】市民会館大ホール  
【参加料】2,000円(昼食代含む)  
【申込期限】6月15日(金)

出場者募集!!

プロ、アマは問いません。

### 部門

- ① 幼年の部(小学4年生以下)
- ② 少年・少女の部(小学5年生以上中学3年生以下)
- ③ 成年の部(高校1年生以上65歳以下)
- ④ 熟年・寿年の部(66歳以上)

【申込・問合先】北海盆唄全国大会実行委員会事務局(教育委員会社会教育課) ☎②2197

前回優勝者の菊沢信枝さん